◆◇◆◇◆ 第６次草津市総合計画の将来ビジョンの検討 ◆◇◆◇◆

資料２

これまでの草津市総合（開発）計画のあゆみ

第１次 第２次

第１次草津市総合開発計画では、**「調和のとれた10万都市づくり」**、第２次草津市総合開発計画では**「活力ある調和のとれた市民都市を目指して」**として、京阪神大都市圏のベッドタウンとして人口が増加する中で「調和のとれた」まちづくりをすすめ、現在の都市基盤の礎を築きました。

調和　活力　市民都市

第３次

第３次草津市総合計画では、びわ湖の感動都市**「活力と魅力あふれる生活文化創造のまち」**としている、草津駅周辺や南草津駅周辺を中心とする都市核の形成や広域圏拠点核の位置づけなど、ハード基盤整備を中心として自主性の高い都市構造づくりを行ってきました。

活力　魅力　生活文化創造

第４次

第４次草津市総合計画では、**「パートナーシップで築く 人と環境にやさしい淡海に輝く出会いの都市」**として、ハード面からの都市機能の集積を一層充実させるとともに、これらをより活かすため、環境や人権、パートナーシップの仕組みづくりなど、ソフト面の強化を目指した取組を行ってきました。

パートナーシップ　人　環境　出会いの都市

第５次

第５次草津市総合計画では、“活力と魅力ある草津”を創出するため、**「出会いが織りなすふるさと“元気”と“うるおい”のあるまち草津」**を将来のまちの姿として掲げ、市民の皆様が生き生きと輝き、安心して暮らすことのできるまちづくりを展開し、草津の人とまちに“ふるさと草津の心（シビック・プライド）”が生み出されるよう取組を進めています。

出会い　ふるさと　元気　うるおい

こうした**第１次から第５次のあゆみ**や**社会情勢の変化を踏まえ**、また、第５次草津市総合計画の**総括評価**や**各調査・会議等**の結果を活かした中で、**第６次草津市総合計画の将来ビジョンの検討を行います。**

第6次草津市総合計画

社会情勢の変化

●国を取り巻く社会情勢の急速な変化に伴い、本市を取り巻く状況も大きく変化していくことが予想されます。

●第６次草津市総合計画の期間中には、本市においてもいよいよ人口減少局面を迎えることが予測されるとともに、生産年齢人口比率の低下や高齢化率の上昇が加速するなど、本市を取り巻く社会・経済・環境は目まぐるしく変化していく見通しです。

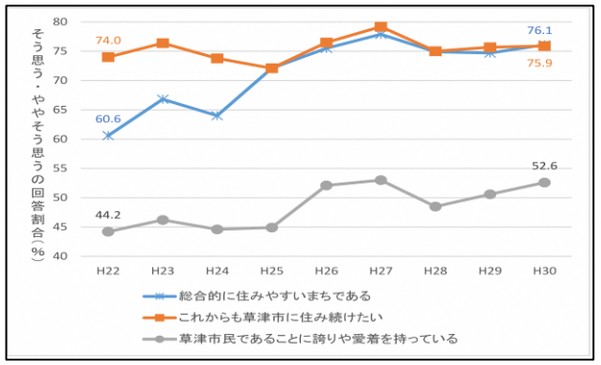
多様化・複雑化する課題

●こうした中、第６次草津市総合計画では、このような諸課題にも柔軟かつ適切に対応するための取組を進めていく必要があります。

第５次草津市総合計画の総括評価から

第5次草津市総合計画に基づくまちづくりを進めてきた結果、**市民意識調査**の**「総合的に住みやすいまちである」**、**「これからも草津に住み続けたい」**という項目で**「そう思う」**、**「ややそう思う」**と回答した市民の割合は上昇し、**4人に３人の市民から草津市の“住みよさ”についての高い評価を得ることができました。**

一方で、**「草津市民であることに誇りや愛着を持っている」**という項目では、**「そう思う」**、**「ややそう思う」**と回答いただいた**市民の割合が上昇しているものの**、**“住みよさ”の指標よりも低い割合**となっています。



回答者の属性を分析すると、**“住みよさ”**の指標は、**転入歴**や**居住年数**に関わらず4人に３人の市民から「そう思う」、「ややそう思う」と回答をいただいています。

一方、**“誇りや愛着”**の指標では、「そう思う」、「ややそう思う」の回答割合は、**生まれてからずっと住んでいる市民**や**居住年数が長い市民**で**高くなっています**。

このことから、**“住みよさ”は転入してからすぐに実感いただくことができるものの、“誇りや愛着”については、意識の醸成までにある程度の時間を要することが分かります。**

市民が将来に描くまちの姿（各調査・会議等より）

【市民意識調査・高校生アンケート調査】

●**市民・高校生**ともに、**現在の都市像で上位に挙げられた項目が将来の望ましい都市像においても上位に挙がっている傾向**がみられました。

●**こうしたことから**、**現在の都市像として実感いただいている、快適で住み心地の良い生活環境を今後も維持し、将来へ引き継いでいくとともに**、とくに上位にあがった都市像の分野での更なる充実・強化が望まれています。

●**市民意識調査**では、**将来の望ましい都市像（都市イメージ）**の分野として**「健康・福祉」**、**「防犯・防災」**、**「子育て」**が上位に選ばれました。

●**高校生アンケート調査**では、**将来の望ましい都市像（都市イメージ）**の分野として**「人権」**、**「趣味や娯楽・スポーツ活動」**、**「教育」**が上位に選ばれました。

【転入者アンケート調査】

●**転入者アンケート調査**では、**草津市への転入の決め手は**、**「通勤・通学時間」**が最も多く、次いで**「住宅価格、家賃、広さ」**、**「買い物等生活の利便性」**の順となっており、草津市の**利便性**や**“住みよさ”**を評価いただいていることがわかります。今後は、**快適で住み心地の良い生活環境を維持・向上させ**、草津市に長く住んでいただくことにより**“誇りや愛着”**をもっていただけるよう取り組んでいく必要があります。

【市民会議】

●**市民会議**では、**「伸ばすところ」「変えたいところ」「進めたいこと」**をキーワードにＧＷを展開し、**「将来住みたいまち」**を創造していただいた結果、**「将来住みたいまち」**で挙げられたキーワードとして、**「ひとにやさしいまち」**、**「思いやりのあるまち」**、**「つなぐ、つながるまち」など**、**“ひとやまちにやさしく、つながりがあるまち”といった観点での意見が多く挙がりました。**

【地域別懇談会】

●**地域別懇談会**では、**「伸ばすところ」「変えたいところ」「進めたいこと」**などをキーワードにＧＷを展開し、今後進めたい取組について提案いただいた結果、**「進めたいこと」**として多く挙がった意見としては、**公共交通（バスなど）の充実**、**渋滞対策**、**地域コミュニティの活性化**、**まちづくり協議会の進展**など、**市民が身近に感じている問題が多く挙がりました。**

【中堅職員への意見照会】

●**中堅職員**から提案された**キーワード**を抽出し、分野ごとに分類すると、以下のようになります。中でも**「人と人・心と心のつながり」**、**「やさしさ」**、**「心寄せ合う」**、**「寄り添いあい」**などの**“人と人のつながり”**を重視した内容が多く提案されました。

第６次草津市総合計画での方向性

●第６次草津市総合計画の計画期間中には、本市においても**人口減少社会**を迎えるとともに、**少子高齢化**がさらに進行していく中、コミュニティの希薄化、社会保障費の増大、社会資本の老朽化などをはじめとするあらゆる分野で**課題が多様化・複雑化**していくことが見込まれます。

●こうした社会情勢の変化などを見据えながら、総括評価でも現在高く評価されている**“住みよさ”**を維持・向上させるとともに、これまでの取組や課題を踏まえつつ、**市民とともに“将来の目指すべき姿”**を長期的な展望に立って検討する必要があります。

●これらを踏まえると、**本市の持つ強みに一層の磨きをかける**ことで住みよさを維持・向上させるとともに、市民が将来に描くまちの姿のキーワードとして挙げられた“つながり”や“やさしさ”があるまちづくりを進めることにより、**人と人のつながりや思いやり**（地域共生社会、地域防災など）、**まちのつながり**（ｺﾝﾊﾟｸﾄｼﾃｨ・ﾌﾟﾗｽ・ﾈｯﾄﾜｰｸなど）が創出され、人口減少や少子高齢化が進行することで生じる諸課題にも柔軟かつ適切な対応が可能となり、次世代にこの住みよいまちが受け継がれ、**“誇りや愛着”**も醸成されていくものと考えます。

●以上のことから、第６次草津市総合計画での方向性を次の**４つの視点**で整理します。

視点１：本市のもつ強みに一層の磨きをかけていく《 市民・高校生・転入者アンケートなど 》

視点２：人と人のつながりや思いやりの醸成 《 高校生アンケート・市民会議・地域別懇談会・中堅職員など 》

視点３：ネットワーク性の高いさらに暮らしやすいまちづくり 《 地域別懇談会など 》

視点４：“誇りや愛着”の醸成 《 総括評価など 》